

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 3ク ォーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 3, 金 / Fri 4
開講期間 / Class period	2017/09/29 ~ 2017/11/16		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170587034601	科目番号 / Subject code	05870346
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 13311_005		
授業科目名 / Subject	多文化共生とグローバル人材育成 (企業の国際展開とグローバル人材育成) / Globalization of the Company and Its Human Resource Development		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	源島 福己 / Fukumi GENJIMA, 古本 裕美 / Furumoto Yumi		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	源島 福己 / Fukumi GENJIMA		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	源島 福己 / Fukumi GENJIMA		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟24 / RoomA-24		
対象学生 (クラス等) / Object Student	2,3,4年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	genjima nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Laboratory	総合教育研究棟5階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2238		
担当教員オフィスアワー/Office hours	水曜日16:10?17:40		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	第3Qにおいて8回の授業を行う。8回目は主に全体の振り返りと学生による授業評価である。授業全体として企業の国際化、グローバル化の歴史的展開と現状について学ぶ。企業は成長の過程で自ずと国際化していく。その代表は多国籍企業と呼ばれる大手企業であるが、多国籍化を伴う海外進出の動きは日本の中小企業にも最近顕著に及んでいる。この授業では多国籍企業とは何かを理解を企業国際化の起点として、経済のグローバル化対応して生き残りを賭けた海外進出を進めている日系企業の歴史と現状を学ぶ。また企業はこれまで何をきっかけとしてどのような国際化を図ってきたのか、またその中でどのようなグローバル人材育成を行ってきたのかを辿る。こうした知識を基に、将来自分がグローバル企業で働く際に求められる教養や能力、専門知識等についての基本を理解する。この授業を選択する学生は、海外志向が強く、積極的にグローバルな企業で働く機会を求めらるであろうとの想定の下、専門用語の説明について英文の資料を使うことも多いので、高度な英語の理解が必要である。		
授業到達目標/Goal	企業の海外進出はなぜ必要となるのか、国際化やグローバル化がどのような段階を経て発展してきたのか、主に多国籍企業の活動を通して考える(?)。経済や社会のグローバル化が進展する中で、企業の成長にとって、あるいは自己のキャリアにとって多文化共生や組織のダイバーシティがいかに重要であるかを深く認識することができるようになる(?, ?, ?, ?) またビジネス変化の激しい現代社会の中で生き残る企業のコア人材とは何か、それはどのように企業で育成されているのかを理解できるようになる(?, ?)。各テーマについては授業中にグループのメンバー間で議論し互いの意見を傾聴し、また課題レポートを書くことで、将来自分がグローバル環境や組織で働いてみたいと思った時に必要な力として、知的好奇心、教養、英語力、基礎学力、表現力、コミュニケーション力や人間関係構築力が重要であると認識できるようになる(?, ?, ?, ?, ?)。この授業を受講したことで、よりグローバルな企業で働く意欲が増進され、こうした企業で働くことを通して社会貢献意欲を高めることができるようになることが大きな目標である(?)。		
授業方法 (学習指導法) /Method	パワーポイントを使った講義を中心に、DVD等を教材として使用する。また各テーマについて、講義の後でグループディスカッションを行い、その内容についてプレゼンテーションを実施する。また授業内容の理解を深めるために、各テーマに対して適宜簡単な理解度テストを行う。前もって指定されたテーマについて学生が授業中に発表し、内容について質疑応答することもある。必要に応じて外部講師を招くこともある。		

<p>授業内容/Class outline/Con</p>	<p>第1回 授業のオリエンテーション、国際収支の動向と国際ビジネス 国際収支の変動は企業活動に大きな影響を受ける。企業が諸外国との間で行う財やサービスの提供、資金の移動は国際集統計の主要な項目にどう影響するか、それが国際ビジネスとどんな関係にあるかを理解する。</p> <p>第2回 多国籍企業とは何か 企業の海外進出を段階的にたどると、企業は様々な要因に基づき単純な国内生産物の輸出から現地生産へと発展的に移行し、それに合わせて生産や販売の拠点を数多くの国に分散し、市場や顧客を想像しリスク分散している。長崎県内企業を含めて多国籍化する過程を学ぶ。この授業ではそうした企業行動について、歴史を辿りながら発展段階を理論的に説明していく。</p> <p>第3回 多国籍企業に関する諸理論 多国籍企業論の幾つかを紹介し、その具体例として欧米日本を中心とした大手企業を採りあげ、その特徴や実態についてより具体的に学ぶ。また長崎県内企業の多国籍化の状況を検証する。</p> <p>第4回 日本企業の国際化 日本企業の多国籍化の背景とは何か。日本の社会や企業にどのような事象や環境変化が起きたのか、これに企業がどのような対応を迫られたのか等を振り返りながら、多くの企業が多国籍化してきた過程を検証する。</p> <p>第5回 日本企業の経営の特徴と異文化理解と異文化対応 欧米の経済先進国やアジアの新興国とのビジネスにおける競争は厳しさを増している。このような経営環境の著しい変化の中で、日本企業は世界中の企業との競争に勝ち抜くためのどのような知恵やノウハウ、特徴を持っているのかを学ぶ。特に長崎県内企業はどのような生き残り戦略を展開しているのかを知る。</p> <p>第6回 中小企業のグローバル化と長崎県の支援 日本の社会を支えてきたのは企業の大多数を占める中小企業であると言ってよいが、グローバル化は今や大企業に必要とされる不可避的な事業展開のみならず、ほとんどの中小企業が対応を迫られている課題となっている。こうした企業は、どのようなビジョンや戦略に基づいて行動しているのかを知る。授業の中では、できるだけ長崎県の地元企業や県庁の国際化支援部門等から外部講師を招いて、県内企業の国際化の状況について説明を受け現状への理解を進める。</p> <p>第7回(木) ビジネス倫理と企業行動 企業による犯罪や不祥事が後を絶たない。企業の持つ倫理性(善行を促し悪行を抑止する力)を企業理念や社是、社訓を通して考える。長崎県内企業の不祥事例等も採り上げる。</p> <p>第8回 授業の振り返りとまとめ これまでの授業を通して学んだ内容を振り返りながら、グローバルビジネス及びそこで求められる人材の要件について考える。最後に学生による授業評価を行う。</p>
<p>事前、事後学習の内容/Preparation & Review</p>	<p>与えられた英文資料を事前に読み込んで理解しておくこと</p>
<p>キーワード/Key word</p>	<p>多国籍企業、日本企業の国際化、コア人材、グローバル人材、グローバル人材育成、企業倫理、企業文化、長崎県内企業のグローバル化</p>
<p>教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book</p>	<p>教科書は使用しない。 参考図書： ? 「日本企業の国際化」大石芳裕編著 ? 「The Global Challenge, International Human Resource Management」 Paul Evans et al ? 「Transnational Corporation and International Production」 Grazia Letto-Gillies</p>
<p>成績評価の方法・基準等/Evaluation</p>	<p>成績評価の中心は課題レポートで行う。 ・レポート 70% ・出席を前提としたグループワーク参加及び授業参加と貢献度10% ・小テスト20% (375回予定) 期末試験は実施しない。</p>
<p>受講要件(履修条件)/Requirements</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に必要な学習：週2時間、課題レポートは必ず提出すること。 ・テーマに関連した事前の配布資料はきちんと読んでくること。 ・グループワークに積極的に参加し、自分の意見を積極的に発言する意欲と英語の文章に取り組む意欲を持っていること。 ・受講態度の悪い学生は授業参加を取り消します。 ・授業で使用したパワーポイントの内容はLACSに添付しないので、学生は授業中にPCを使用し、授業内容の要点を書きとること。
<p>アクセシビリティ/Accessibility</p>	<p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-Mail) support@ml.nagasaki-u.ac.jp</p>
<p>備考(URL)/Remarks(URL)</p>	<p>長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp</p>

<p>学生へのメッセージ/Message for students</p>	<p>皆さんが社会に出る頃はもちろん、その先はもっと経済や社会のグローバル化が進んでいるでしょう。特に海外に拠点を複数持つ企業では、既に自分の周りに外国人がたくさんいて、彼らと日常的に一緒に働く必要があり、うまくコミュニケーションを図ることが不可欠な状況が増えてくるものと予想されます。グローバルな企業で働くコア人材になるために、企業グローバルとは何かについて一緒に学びましょう。この授業には外国人留学生も参加するので、彼らとの積極的な意見交換を期待します。</p>
<p>授業計画詳細 / Course Schedule</p>	
<p>回(日時) / Time(date and time)</p>	<p>授業内容 / Contents</p>
<p>第1回</p>	<p>授業のオリエンテーション、国際収支の動向と国際ビジネス 国際収支の変動は企業活動に大きな影響を受ける。企業が諸外国との間で行う財やサービスの提供、資金の移動は国際集統計の主要な項目にどう影響するか、それが国際ビジネスとどんな関係にあるかを理解する。</p>
<p>第2回</p>	<p>多国籍企業とは何か 企業の海外進出を段階的にたどると、企業は様々な要因に基づき単純な国内生産物の輸出から現地生産へと発展的に移行し、それに合わせて生産や販売の拠点を数多くの国に分散し、市場や顧客を想像しリスク分散している。長崎県内企業を含めて多国籍化する過程を学ぶ。この授業ではそうした企業行動について、歴史を辿りながら発展段階を理論的に説明していく。</p>
<p>第3回</p>	<p>多国籍企業に関する諸理論 多国籍企業論の幾つかを紹介し、その具体例として欧米日本を中心とした大手企業を採りあげ、その特徴や実態についてより具体的に学ぶ。</p>
<p>第4回</p>	<p>日本企業の国際化 日本企業の多国籍化の背景とは何か。日本の社会や企業にどのような事象や環境変化が起きたのか、これに企業がどのような対応を迫られたのか等を振り返りながら、多くの企業が多国籍化してきた過程を検証する。日本企業の国際化、グローバル化の波に長崎県内企業はどこまでフォローできているのか。長崎県内企業の状況を検証する。</p>
<p>第5回</p>	<p>日本企業の経営の特徴と異文化対応 欧米の経済先進国やアジアの新興国とのビジネスにおける競争は厳しさを増している。このような経営環境の著しい変化の中で、日本企業は世界中の企業との競争に勝ち抜くためのどのような知恵やノウハウ、特徴を持っているのか、異文化摩擦にどう対応しているのかを学ぶ。特に長崎県内企業はどのような生き残り戦略を展開しているのかを知る。</p>
<p>第6回</p>	<p>中小企業のグローバル化と長崎県の支援 日本の社会を支えてきたのは企業の大多数を占める中小企業であると言ってよいが、グローバル化は今や大企業に必要とされる不可避的な事業展開のみならず、ほとんどの中小企業が対応を迫られている課題となっている。こうした企業の対外進出を長崎県はどのようにさばーとしているのか、どのようなビジョンや戦略に基づいて行動しているのかを知る。授業の中では、できるだけ長崎県の地元企業や県庁の国際化支援部門等から外部講師を招いて、県内企業の国際化の状況について説明を受け現状への理解を進める。</p>
<p>第7回</p>	<p>ビジネス倫理と企業行動 企業による犯罪や不祥事が後を絶たない。企業の持つ倫理性（善行を促し悪行を抑止する力）を企業理念や社是、社訓を通して考える。日本全国で起きた企業の不祥事例等を採り上げる。</p>
<p>第8回</p>	<p>まとめ：これまでの授業内容を振り返る。 最後に学生による授業評価を行う。</p>
<p>第9回</p>	
<p>第10回</p>	
<p>第11回</p>	
<p>第12回</p>	
<p>第13回</p>	
<p>第14回</p>	
<p>第15回</p>	
<p>第16回</p>	

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 1クオ ーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Class period	2017/04/06 ~ 2017/06/01		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170587035301	科目番号 / Subject code	05870353
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 13331_005		
授業科目名 / Subject	多文化共生とグローバル人材育成 (英語で学ぶオランダと西欧の文化) / The Culture and History of the Netherlands and Western Europe in English		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	山下 龍 / Yamashita Noboru, 古本 裕美 / Furumoto Yumi		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	山下 龍 / Yamashita Noboru		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	山下 龍 / Yamashita Noboru		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育B棟15 / RoomB-15		
対象学生 (クラス等) / Object Student	E, L, F, P		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	noboruy@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	Center for Language Research B-112 gengo-ky?iku-kenky?-sent?		
担当教員TEL/Tel	095-819-2080		
担当教員オフィスアワー / Office hours	Before and after the lecture On appointment		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	Over 400 years ago, diplomatic and trade relationships between The Netherlands and Japan were started through Nagasaki. The Netherlands are situated in the center of Europe and because of this location are strongly connected to the historical and cultural development of other Western Europe nations. This lecture focuses on the developments in The Netherlands and discusses these developments in relation to those in the countries surrounding it. The historical bond between The Netherlands and Nagasaki will also be discussed.		
授業到達目標 / Goal	The goal of this lecture is to give students a basic knowledge of the historical and cultural development of The Netherlands and other Western European countries. The history of the relationships between The Netherlands and Japan is also a point of focus		
授業方法 (学習指導法) / Method	This class will be given in English. A PowerPoint presentation will be used to achieve a better understanding of the discussed subjects. as a part of the lecture students will be required to work in small groups to answer questions that are related to the subjects that are discussed in class. To improve their understanding of the subjects discussed, students will receive homework-assignments either to be done in groups or on their own,		
授業内容 / Class outline/Con	This lecture discusses the culture and history of The Netherlands and Western Europe, starting from the rise of the Roman Empire up to the present.		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review			
キーワード / Key word	The Dutch-Japanese relationship, International relationships, Cultural anthropology, English, History, Culture		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	Handouts will be given every class		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	The method for grading is the following: attendance and study attitude 40%, final test 40%, final paper (or presentation) 10%		
受講要件 (履修条件) / Requirements	Full attendance is required		
アクセシビリティ / Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) / Remarks(URL)			
学生へのメッセージ / Message for students	Study the old, understand the new!		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
1st	The Rise and Fall of the Roman Empire The Introduction of Christianity to Western Europe		

2nd	Charles the Great (Charlemagne) and the Carolingian Empire The Crusades The Development of the Dutch Language
3rd	The Rise of the Province of Holland The Crisis of the Late Middle Ages The Hanseatic League and Trade
4th	Spain and Portugal, The Age of Discovery Erasmus and the Renaissance Charles V and the Holy Roman Empire
5th	Martin Luther and the Protestant Reformation William of Orange and the Dutch Revolt
6th	The Republic of the Seven United Netherlands Art in the 15th and 16th Century
7th	The Dutch East India Company VOC The Dutch in Japan, Hirado and Deshima
8th	The Dutch Golden Age Art in the 17th Century
9th	Slavery The Age of Enlightenment and the French Revolution The Napoleonic Era
10th	The Kingdom of the Netherlands Belgian Independence
11th	The Industrial Revolution Child Labor Women's Rights Impressionism and Vincent van Gogh
12th	The Economical Crisis of the 1930 's World War I The Art of De Stijl
13th	World War II The Beginning and End of the Cold War The Netherlands in the 20th Century
14th	The Netherlands at Present Religion and Traditions, Land of Bicycles
15th	The Netherlands at Present Education and Sports, Politics, Food and Sweets
16th	Final Test

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 1クオ ーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Class period	2017/04/06 ~ 2017/06/01		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170587035301	科目番号 / Subject code	05870353
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 13331_005		
授業科目名 / Subject	多文化共生とグローバル人材育成 (英語で学ぶオランダと西欧の文化) / The Culture and History of the Netherlands and Western Europe in English		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	山下 龍 / Yamashita Noboru, 古本 裕美 / Furumoto Yumi		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	山下 龍 / Yamashita Noboru		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	山下 龍 / Yamashita Noboru		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育B棟15 / RoomB-15		
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化・教育・経済・薬学・水産		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	noboruy@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	言語教育研究センター B-112		
担当教員TEL/Tel	095-819-2080		
担当教員オフィスアワー / Office hours	講義の前後		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	日本とオランダとの交流が江戸初期から始まり、その交流が現在まで400年以上続いています。この講義ではオランダの文化と歴史を中心に、西欧の歴史的・文化的発展、または、長崎と深い関わりのある日蘭交流について、基本的な知識の習得と文化理解を目的とします。現在の国際社会において公用語である英語で講義を提供します。		
授業到達目標 / Goal	英語でオランダと西欧の歴史と文化、または、日蘭交流についての基本的な知識を習得します。		
授業方法 (学習指導法) / Method	講義形式 この講義の為に作成した資料や視聴覚教材(Powerpoint)を利用して、世界史が得意ではない学生にも、より分かりやすく、オランダと西欧の文化と歴史を紹介します。		
授業内容 / Class outline / Con	ローマ時代から現在までの歴史の出来事を説明しながら、オランダと西欧の発展を理解させます。オランダを知ることで、西欧の文化の発展も理解することができます。		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review			
キーワード / Key word	英語・歴史・国際理解・比較文化・日蘭交流・蘭学・文化		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	教材・プリント教材 毎回配布します		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	成績評価は、定期試験50%、出席・授業態度40%、英語でのレポート(発表)10%		
受講要件 (履修条件) / Requirements	全回出席が原則		
アクセシビリティ / Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) / Remarks (URL)			
学生へのメッセージ / Message for students	英語での講義を受ける抵抗もあると思いますが、講義の内容をしっかりと聞き、渡された教材を予習・復習すれば、英語能力はアップし、オランダや西欧の文化と歴史を広く、楽しく理解できるようになります。		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	ローマ帝国時代 西欧でのキリスト教の布教		
第2回	カール大帝とカロリング(フランケン)帝国 十字軍 オランダ語文学の誕生		
第3回	ホーランド州の発展 中世末期の危機 北ヨーロッパのハンザ貿易		

第4回	スペインとポルトガル、大航海時代 エラスムスとルネサンス カール5世と神聖ローマ帝国
第5回	マルティン・ルターとプロテスタントの宗教革命 オラニエ公ウィレム1世とオランダの独立
第6回	ネーデルランデン7州連邦共和国 15・16世紀の美術
第7回	オランダ東インド会社の創立 日蘭交流、平戸・出島
第8回	オランダの黄金時代 17世紀の美術
第9回	奴隷制 啓蒙思想時代とフランス革命 ナポレオン時代
第10回	オランダ王国 ベルギーの独立
第11回	産業革命 年少労働 女性権利 印象派とフィンセント・ファン・ゴッホ
第12回	第一次世界大戦 1930年代の世界恐慌 De Stijlの美術
第13回	第二次世界大戦 冷戦時代 20世紀のオランダ
第14回	現在のオランダ 宗教と伝統・祭り・自転車の王国・など
第15回	現在のオランダ 教育とスポーツ・政治・食べ物とお菓子・など 講義の総括
第16回	定期試験

学期 / Semester	2017年度 / Academic Year 4ク ォーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3, 木 / Thu 4
開講期間 / Class period	2017/11/28 ~ 2018/02/01		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20170587036101	科目番号 / Subject code	05870361
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 13351_005		
授業科目名 / Subject	多文化共生とグローバル人材育成 (異文化接触とコミュニケーション) / Cross-Cultural Contact and Communication		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	古本 裕美 / Furumoto Yumi		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	古本 裕美 / Furumoto Yumi		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	古本 裕美 / Furumoto Yumi		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟22 / RoomA-22		
対象学生 (クラス等) / Object Student			
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	furumoto[at]nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は @に@に変更して送信してください)		
担当教員研究室 / Laboratory	環境科学部 2階 (東奥) 国際教育リエゾン機構教員室		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー / Office hours	木曜日16時?17時		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	人は言葉を使ってコミュニケーションをしています。同じ言葉を使えば、自分が思った通りのことが誤解なく相手に伝わると考えてしまいがちですが、実はそうではありません。言葉は共有のものであると同時に社会、時代、男女などの影響を受けてその人自身で育てるものだからです。その同じ日本語であっても「異文化コミュニケーション」になります。この授業では、日本語を通して考えることを通じて、言葉やコミュニケーションについての考えを深めることを目的としています。		
授業到達目標 / Goal	(1) 長崎大学や長崎県、日本にいる外国人のことを知る (2) 自分の日本語やコミュニケーションの仕方について客観的に捉えることができる (3) 日本人と外国人が共に暮らすために大切なもの・ことについて考え、提案できる (4) 仲間と一緒に考え、行動する力を身につける		
授業方法 (学習指導法) / Method	この授業では、まず、講義形式で「やさしい日本語」について学びます。そして、自分の日本語やコミュニケーションの仕方について振り返ります。次に、長崎大学にいる留学生にインタビューすることを通して、本学にどのような外国人がいて、どのような生活を送っているかについて知ります。また、PBL (Problem Based Learning) を通じて、自ら課題を発見し、それについて調べ、日本人と外国人が共に暮らすために必要なこと・ものについて考えます。この授業では、グループでの作業 (ディスカッション、調査、プレゼンテーションなど) を多く行います。そして、担当教員がみなさんの理解度や感じたことを知るために、かつ、みなさん自身がその日学んだことを振り返るために、授業後に、「振り返り記録用紙」に感想等を記入してもらいます。		
授業内容 / Class outline / Con	第1回の授業では、長崎や日本にいる外国人のことと、「やさしい日本語」について学びながら、自分が普段使っている日本語や、身の回りの日本語、コミュニケーションの仕方について振り返ります。第2回から第6回は、長大留学生に長大での生活や、長崎での生活についてグループで調査し、その結果をグループで発表します。第7回から第14回は、PBLを通して、個別学習やグループ学習、プレゼンテーションなどを行います。第6回までに学んだことを活用しながら、日本人と外国人が共に暮らすために、自分(自分たち)に何ができるかについて考えます。		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review			
キーワード / Key word	言葉, コミュニケーション, "やさしい", 文化, 社会, 変容		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は使用しません		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	(1) 「"やさしい"日本語」(クイズ, 振り返り記録) : 10% (2) 「長大留学生を知る」プロジェクト (発表, レポート, 振り返り記録) : 35% (3) 「多様な人との共生」プロジェクト (発表, レポート, 振り返り記録) : 50% (4) 授業への積極的な参加度 : 5%		
受講要件 (履修条件) / Requirements			
アクセシビリティ / Accessibility	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) / Remarks (URL)			
学生へのメッセージ / Message for students			
授業計画詳細 / Course Schedule			

回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回 (12/7) 3校時	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・在日・訪日外国人 ・"やさしい"日本語 ・ユニバーサル・コミュニケーション
第2回 (12/7) 4校時	<ul style="list-style-type: none"> ・「長大留学生について知る」調査の計画と実施
第3回 (12/14) 3校時	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果のまとめと分析
第4回 (12/14) 4校時	<ul style="list-style-type: none"> ・発表準備
第5回 (12/21) 3校時	<ul style="list-style-type: none"> ・成果発表
第6回 (12/21) 4校時	<ul style="list-style-type: none"> ・PBL (Problem Based Learning) についての説明 ・シナリオを読む (Step1) ・キーワードの抽出 (Step2)
第7回 (1/4) 3校時	<ul style="list-style-type: none"> ・問題提示 (Step3) ・問題の位置付け (Step4)
第8回 (1/4) 4校時	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の計画 (Step5) ・中間発表の準備
第9回 (1/11) 3校時	<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表
第10回 (1/11) 4校時	<ul style="list-style-type: none"> ・個別学習 (Step6)
第11回 (1/18) 3校時	<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の共有 (Step7)
第12回 (1/18) 4校時	<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果の整理と発表準備 (Step8)
第13回 (1/25) 3校時	<ul style="list-style-type: none"> ・成果発表
第14回 (1/25) 4校時	<ul style="list-style-type: none"> ・成果発表
第15回 (2/1) 3校時	<ul style="list-style-type: none"> ・前週の発表のフィードバック ・本科目のまとめ